

人間的成長なきものに 技術的進歩なし



「人に頑張りたい」と、次の目標に向けて動き出していました。

2人の出会い

2人の出会いは小学校のとき。

今年の夏の甲子園大会に、本市出身の鈴木寛人さん（下館西中出身）と栗原賢人さん（明野中出身）が挑みました。

憧れの甲子園

「憧れの甲子園のマウンドは緊張よりもワクワクしました」。霞ヶ浦高校エースの鈴木さんは、夏の県大会で1500人を

マークした右の本格派投手です。決勝では完封勝利を収め、甲子園の切符を手に入れました。

甲子園では、初戦のマウンドを託されますが、大阪府代表の履正社高校に序盤からリードを奪われ、「気が付いたときには試合が終わっていた。あつという間でした」と振り返ります。「茨城国体ではこの悔しさをバ

き。別々のチームでしたが、試合を通して交流を深め、中学校では「筑西田宮ボーイズ」でチームメイトに。小学生時代からライバルとしてお互い励まし、高め合ってきた2人。残念ながら栗原さんは、甲子園でのベンチ入りはできませんでしたが、鈴木さんが甲子園に出発する際、

「俺の分まで頑張れよ」と声を

掛けたそうです。「戦う気持ちはグラウンドに立つ選手と同じです。アルプススタンドから声を張り上げ、自分も全力で戦っていました」と振り返ります。

霞ヶ浦高校での成長

高校入学後、球速が20km以上も伸びた鈴木さん。通常の倍近い、30kmもあるブルペンで投げ込みを行い「指先へのボールのかかりを意識し、正しい回転がかかるように心がけていました。遠いのでコントロールも磨かれます」と教えてくれました。

また、栗原さんは高校生活を寮で過ごしていることもあり「野球の技術だけではなく、人間的にも大きく成長することができました」と感謝の言葉を口にします。

今後について鈴木さんは「まずは国体の試合に集中したい。進路は国体が終わってから考えます」。栗原さんは「専門学校に行き、理学療法士の勉強をしたいです」と話してくれました。暑い夏が終わり、次のステップに向けて歩き出した2人の目は、とても輝いていました。



共に励まし合い 夢の舞台・甲子園へ

霞ヶ浦高校野球部3年

栗原賢人さん（写真右）

鈴木寛人さん（写真左）

